

2月 (如月・木芽月) February

〇メッセージ

3月が近づき、今年度もあと1ヶ月を残すのみとなりました。今年度は、どのような1年になりましたか？4月からは新入生が入学し、1・2年生の皆さんは、新しい学年になります。今の学年で思い残すことが無いように、残りの1ヶ月間充実した期間にできると良いですね。図書館もラストスパート——皆さんの利用をお待ちしています。

〇連絡

手元にある本は返却期限を過ぎていませんか？

貸出期間は一週間です。

読んだ本は早めに図書館へ返却して下さい。

〇2月の花言葉と誕生石

◇2月の花言葉◇

ウメ: 高潔・澄んだ心 アネモネ: はかない恋
クロッカス: 青春の喜び・信頼

◇2月の誕生石◇

アメシスト: 誠実・心の平和

百瀬、こっちを向いて。/中田永一

4つの中短編を集めた小説。頭があがらない先輩の頼みで、とある女性の彼氏のふりをすることになってしまった男子高校生の話。母譲りの美しい美貌を隠すために、目立たないようにメイクをしている女子高校生と、偶然その素顔を見てしまったクラスメイトの話などが入っています。まだ恋をしたことがない登場人物達の「惹かれていく気持ち」を上手く表現している物語が多く、読後感が爽やかです(祥伝社 2008年)

晩年の子供・ぼくは勉強ができない/山田詠美

“私はかつて晩年を迎えたことがある。”という印象的な書き出しで始まる「晩年の子供」などを収録した短編集。10歳の時、突然「晩年」を迎えることとなった少女の葛藤と結末とのギャップが楽しい作品です。(講談社 1994年) 同作家の短編集『ぼくは勉強ができない』(新潮社 1996年)という作品もおすすめてです。勉強も大切ですが、それ以外の大切なことも気づかせてくれます。高校生時代にぜひ読んで欲しい作品です。

黄色い目の魚/佐藤多佳子

イラストレーターの叔父をもち「絵を見るのが大好きな」村田さんと、色々な人物のイラストを描く癖があるサッカー部の木島くん。二人の高校生活が物語の中心です。自分の限界を知る怖さや、何に打ち込むべきか分からないもどかしさ。恋をすることによって生まれる、感情のうねり…次々と溢れる感情は、高校生ならではの。表題の「黄色い目の魚」が出来た10年後に書き加えられ、生まれた短編集です(新潮社 2002年)

青春



短編

檸檬のころ/豊島ミホ

とある県の田舎にある高校、北高を舞台にした、短編集。前の話に出ていた登場人物が、後の話に再登場する演出によって、物語が繋がりが、面白い発見が得られます。この小説の良さは、ありふれた高校生活の中に存在する、キラリと光る出来事を上手に抜き出しているところです。たとえ小さくとも、高校時代の思い出のひとつひとつが大切だと思える小説です。(幻冬舎 2005年)

きみが見つける物語/角川文庫編集部編

様々なシチュエーションの短編を集めたシリーズ。「スクール編」「放課後編」「休日編」「友情編」「恋愛編」の5冊が図書館に入りました。このシリーズの特徴は、様々な作家(乙一・東野圭吾・宮部みゆきなど)の作品の中から、それぞれの状況に合った作品を集められている点です。短編を読んで気に入った作家さんを見つけられれば、図書館にある他の本を読むことも可能です。好きな作家を見つけてみませんか？(角川書店 2008年)

ミュージック・プレス・ユー！！/津村記久子

短編ではないですが、おすすめ青春小説を1冊。音楽を聴くことが大好きでCDプレイヤーを常に持ち歩く、ロック少女のアザミは高校三年生。活動していたバンドが些細ないざこざで解散し、夏休みは赤点科目の補講のために学校へ登校しなければならぬ——近づいてくる大学入試に焦り、満足できない現状に迷いながらも、少しずつ前に進んでいくアザミを応援したくなる小説です。音楽好きの人はぜひどうぞ(角川書店 2008年)